

# 高梁の 近代化遺産 ①

## 近代化遺産とは

「近代」とは明治維新から第二次世界大戦終結まで、「近代化」とは近代的な状態への移行とそれに伴う変化を示します。

ところが、「近代化遺産」の定義は辞書にありません。わが国が近代化を遂げる上で一定の役割を果たした建造物などを示す言葉で、平成二年ごろから使われ始めました。

平成一七年、岡山県文化財保護協会は「岡山県の近代化遺産」岡山県近代化遺産総合調査報告書」を発行しました。この調査は、



京都国立博物館本館。明治28年竣工、30年開館。ジョサイア・コンドルの薫陶を得た、嘉永6年長州生れの建築家・片山東熊の設計。本館、表門、札売場、袖塀は重要文化財。

文化庁と都道府県が、今後、文化財として保護・活用してゆく建造物を確認するために始めたものです。

「世界遺産(World Heritage)」の「Heritage」とは先達の文化遺産を意味します。わが国が「世界遺産条約」を締結したのは平成四年。決して早かったとはいえませんが、「自然遺産」の「屋久島」、「文化遺産」の「姫路城」とは性格の異なる「石見银山とその文化的景観」が、平成一九年に「世界遺産一覧表」に記載されました。また、「富岡製糸場と関連する産業遺産」と九州・山口の近代化産業遺産群」は「世界遺産暫定リスト」に記載されています。

イギリス産業革命発祥の地「アイアンブリッジ渓谷」と、鉱物資源の一大産地「コーンウォールと西デヴォンの鉱山景観」は世界遺産に認定された近代化遺産です。今や、「産業景観」が世界遺産になる時代です。

わが国に西洋の建築技術を伝えたのは、お雇い外国人のジョサイア・コンドルらでした。コンドルは、東京大学の前身となる「工部大学校」で日本人技術者の育成にあたりました。「東京駅」などの設計で著名な辰野金吾や、「京都国立博物館」などの片山東熊らはその直系です。

こうした政府主導型の近代建築を「官の系譜」、地方の棟梁や大工などが見よう見真似で取り組んだ「擬洋風建築」を「民の系譜」と呼び



旧高梁尋常高等小学校本館。現在の高梁市郷土資料館。天井を高くとり、正面ポーチを中心に、ほぼ左右対称の木造建築。明治から大正にかけての学校建築の傑作。市指定重要文化財。

ます。

明治政府は「近代化」を急ぎましたが、人材の育成には時間がかかります。破格の報酬で招聘されたお雇い外国人たちに発注したのは工場や官庁など殖産興業や行政関連の建物で、地方にまでお雇い外国人を派遣する余裕はありませんでした。

わが国が、僅か三〇年で近代国家の仲間入りを果たしたのは、江戸時代までに培った建築技術と勤勉さのほかに、棟梁や大工の熟練した技があったからです。

「高梁基督教教会堂」と「旧高梁尋常高等小学校本館」は高梁市街の擬洋風建築の双璧です。明治二二年と明治三七年の竣工。当時、まだ伯備線は開業していません。花崗岩と木という地元の材料を使った堂々たる建物です。

そうした「高梁の近代化遺産」を、これからシリーズで紹介させていただきます。

(文・吉備国際大学社会学部ビジネスコミュニケーション学科准教授 小西伸彦さん)

編集と発行(毎月15日発行)高梁市総務部企画課

〒716-8501 岡山県高梁市松原通2043 電話0866(21)0210 ホームページアドレス <http://www.city.takahashi.okayama.jp/>



この印刷の一部には水質保全に有効な水なし印刷方式を採用しています。



環境にやさしい大豆油インキを使用しています。

再生紙を使用しています。